

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年7月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 10
4 対日動向	・ ・ ・ 14
5 国境地域等での活動	・ ・ ・ 19
6 軍事外交・共同訓練	・ ・ ・ 20
参考文献	・ ・ ・ 25

1 全般

陸軍の民間船との着上陸訓練や海軍の実射・遠海訓練等、軍種毎に訓練を高度化させ、積み上げを継続している。更に海空軍はロシア（以下、露）との海上共同パトロール、海上共同演習、共同空中戦略パトロールを実施、その行動範囲を拡大すると共に中露軍事協力の継続をアピールし、米国等を牽制した。

台湾に対しては、台湾の漢光演習 40 号に先立ち、台湾南東にて空母「山東」も参加する海空協同訓練を実施し、1 日当たりの台湾海峡中間線超えの軍用機が 56 ソーターと本年最大数になる等、圧力を強化した。

日本に対しては、6 月に尖閣巡航編隊 4 隻すべてを砲搭載船としたが、7 月以降もこれを継続する等、上げたエスカレーションラダーを維持した。また、日本周辺における UAV の飛行が 4 回、複数の艦艇による宗谷・津軽・大隅海峡及び与那国・台湾間、沖縄・宮古間の通過が確認される等、情報収集も活発化させている。

2 各軍等

(1) 統合・協同訓練

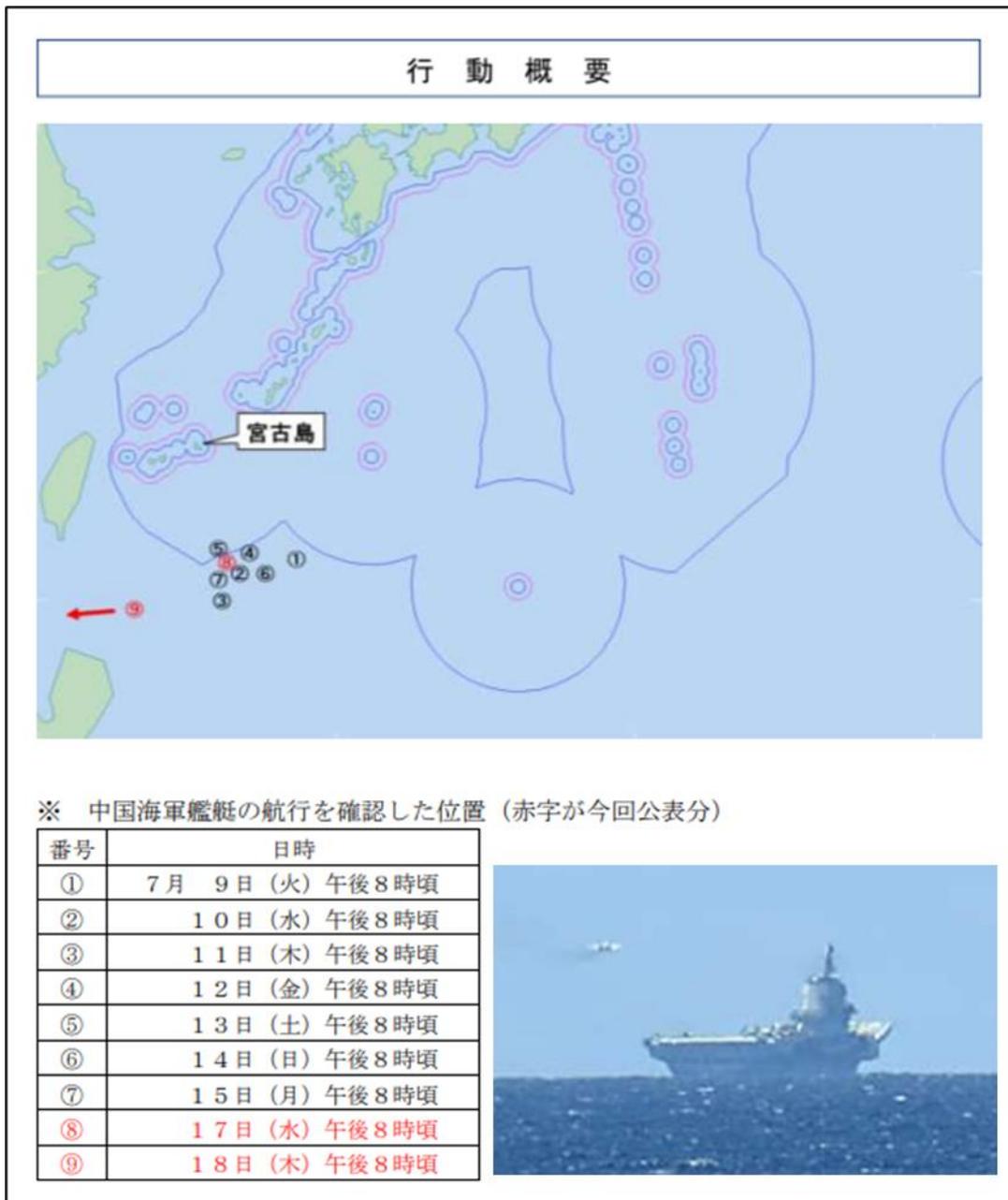
○ 空母「山東」参加の海空協同訓練

7月9日、空母「山東」、レンハイ級ミサイル駆逐艦1隻、ルーヤンIII級ミサイル駆逐艦1隻及びジャンカイII級フリゲート1隻の計4隻が宮古島南東を航行¹し、フユ級高速戦闘支援艦も加わり、太平洋上において訓練を実施。

10日には中国軍機J-16、H-6、KJ-500、UAV等が「山東」と海空協同訓練を実施した²。

9～15日及び17～18日までの間に、「山東」の艦載戦闘機によるもの約260回及び艦載ヘリによるもの約160回、計約420回の発着艦が確認された³。

18日に同艦艇群は南シナ海に向けて航行した。



（資料源：統合幕僚監部 20240719）

【コメント】

「山東」の太平洋航海初確認は2023年4月であり、宮古島南方において4月7～9日の間に艦載戦闘機によるもの約80回及び艦載ヘリによるもの約40回、計約120回の発着艦を確認した。

2回目は2023年9月であり、宮古島南方において9月13～14日の間に艦載戦闘機によるもの約40回及び艦載ヘリによるもの約20回、計約60回の発着艦を確認した。

2023年4月は4月5日に蔡総統（当時）が訪米し、マッカーシー米下院議長と会談したことを契機とした聯合利剣演習に、9月は台湾周辺海域における大規模統合演習に参加した可能性があった。

今回も昨年と同様に台湾南東の宮古島南方で実施しており、台湾で7月22日から開始された漢光演習に対し事前に牽制を行った可能性がある。また、訓練期間及び発着艦回数が大幅に増加していることから、山東の訓練練度が向上している可能性もある。

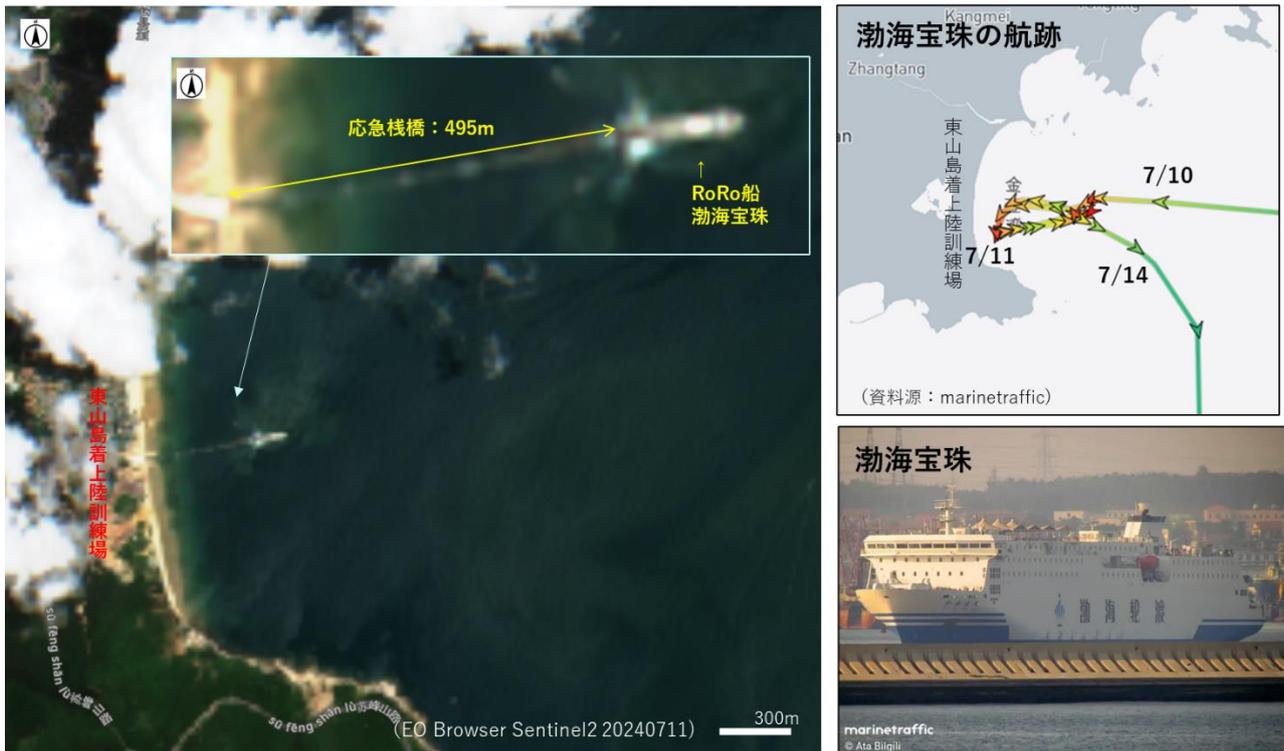
(2) 陸軍

○ RORO 船を使用した着上陸訓練

7月になり、着上陸訓練の報道が多くなされるようになり、訓練が活発化している。

下左の衛星画像は7月11日の東山島着上陸訓練場である。船舶から陸地に橋のようなものが伸びている様子が確認できるが、これは船舶に搭載している車両が臨時に構築された応急棧橋を利用して上陸する訓練をしている可能性がある。

右図はこれまで軍との訓練が確認されている RORO 船「渤海宝珠」の AIS による航跡であるが、11日に東山島着上陸訓練場海域に所在している。「渤海宝珠」が応急棧橋に接続して軍用車両を卸下/積載する訓練に参加した可能性がある。



【コメント】

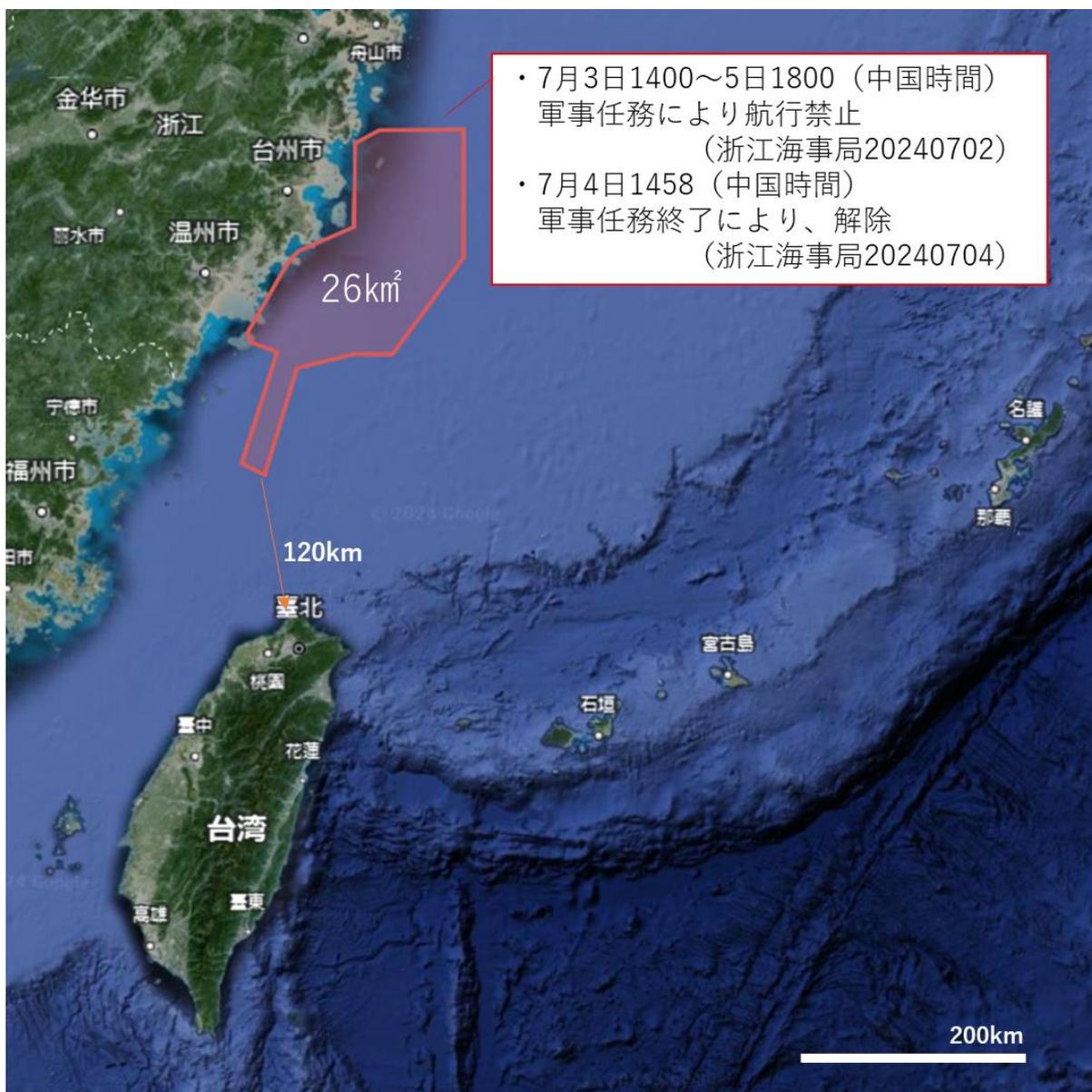
画像では6月は中隊規模の浮航訓練が確認されており、7月には RORO 船との訓練が確認されたことから、訓練を逐次高度化させている。

AIS では「渤海宝珠」の他、「渤海珍珠」「渤海鑽珠」「渤海恒生」「渤海金珠」の4隻が7月に入り定期航路を外れて南下し、着上陸訓練場である大呈湾付近で活動したことが確認されており、軍との訓練または訓練準備に参加している可能性がある。

(3) 海軍

○ 浙江省沖実弾演習

7月3～5日、下図のように温州沖で軍事任務による航行禁止区域が設定された⁴。



【コメント】

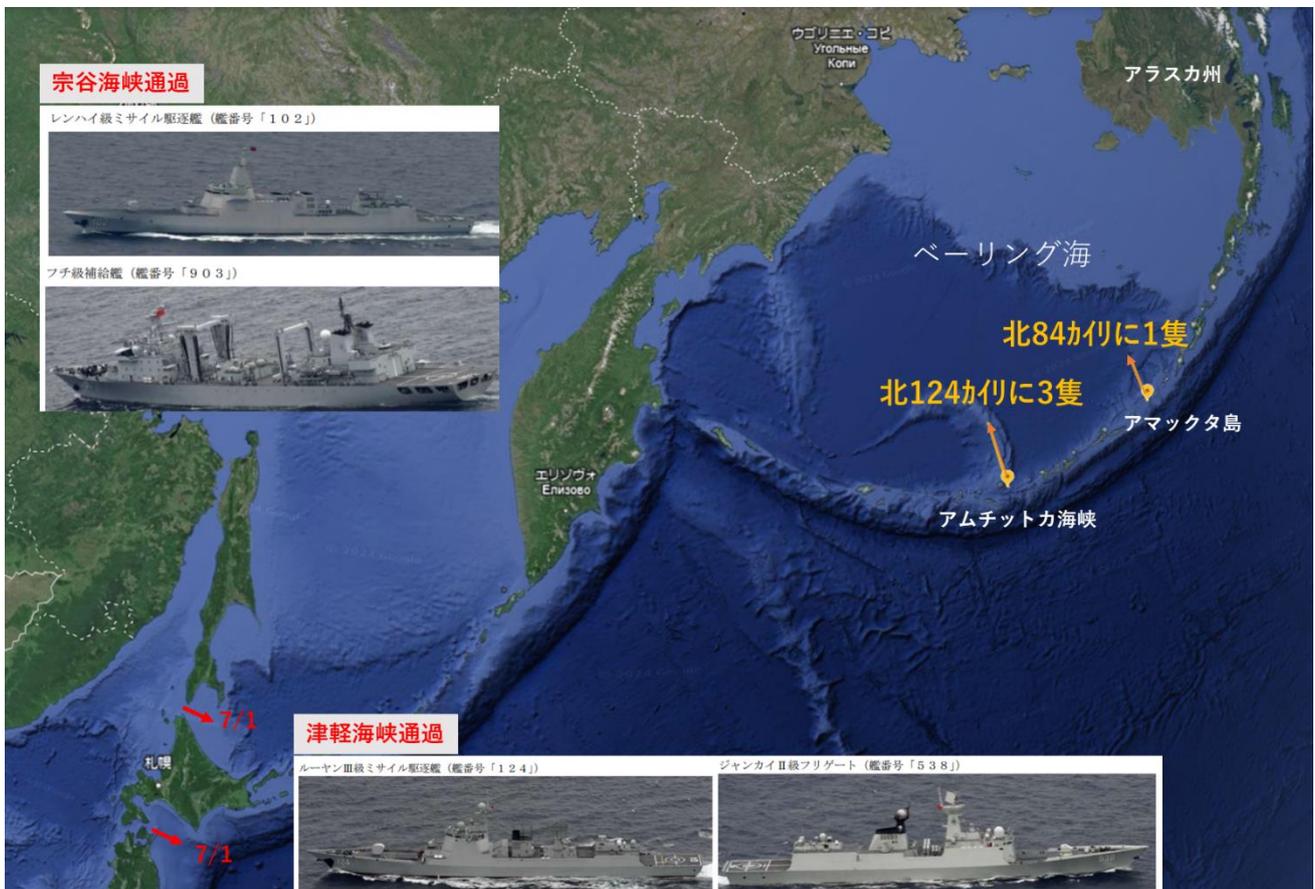
海上自衛隊の護衛艦「すずつき」が7月4日に中国浙江省沖の中国領海を一時航行し、中国側から退去勧告を受け領海の外に出たと報道された。設定された海域から、台湾侵攻を担当する東部戦区海軍による実弾射撃訓練が実施されており、「すずつき」は当該訓練を監視していた可能性がある。

○ ベーリング海での遠海訓練

7月10日、米沿岸警備隊は6及び7日にベーリング海で中国艦艇を確認したと公表。概要は以下の通り⁵。

「中国艦艇をアムチットカ海峡の北124カ所に3隻、アマックタ島付近北84カ所に1隻を確認。4隻は国際海域だが、米EEZ内を航行。米沿岸警備隊の呼びかけに対し、彼らの目的は『航行の自由作戦』であると返答した。米側は中国艦艇がアリューシャン列島南方から北太平洋に抜けるまで監視を続け、EEZ内で米船舶や国際通商が安全であることを確認した。2021・2022年にも米沿岸警備隊は中国艦艇がベーリング海に展開したのを確認している。」

これに関し7月25日、中国国防部報道官は定例記者会見において「中国艦艇の年度計画に基づく定例訓練による展開であり、その目的は戦備訓練の練度向上で特定の国を想定しているわけではない。中国は今後も類似の遠海訓練を実施する」と述べた⁶。



(写真資料源：統合幕僚監部 20240701)

【コメント】

ベーリング海に展開した4隻は、7月1日にそれぞれ津軽・宗谷海峡を通過した艦艇の可能性がある。同4隻は太平洋にて約1か月活動した後、7月29日に2隻それぞれ与那国・台湾間及び沖縄・宮古間を通過し東シナ海に向けて航行した。日本周辺における様々な太平洋進出ルートの海域調査や日本の対応の確認をしつつ、太平洋での訓練を行っている可能性がある。

また、7月25日に中露はベーリング海上空において共同空中戦略パトロールを実施（6軍事外交・共同訓練の項参照）しており、これと併せ、米国を牽制した可能性がある。

(4) ロケット軍

○ ミサイル試射

台湾国防部は7月13日、「7月13日0400頃から、ロケット部隊が内蒙古地区において波状的な試射を実施したのを補足した」と発表した⁷。

【コメント】

台湾が中国ロケット軍の試射の状況を発表するのは異例。

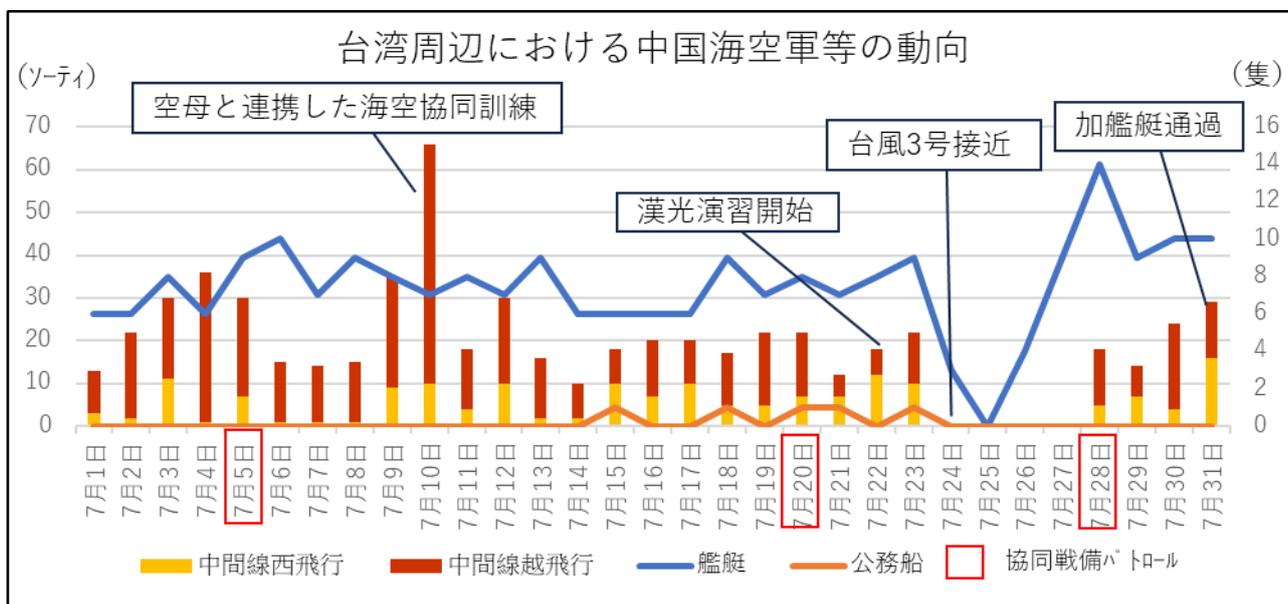
台湾と中国の内モンゴル自治区は約2000kmの距離があり、一般的に試射は海上目標への発射でない限り射爆場が多く確認されている新疆ウイグル自治区等の西方向へ行われるため、台湾から補足できる機会は限定されると認識されている。今回の発表により、台湾の防空能力を誇示し中国を牽制した可能性がある。

また、ロケット軍は昨年に司令官・政治委員が共に更迭される等組織の健全性が疑問視されてきたが、今回の発表により、訓練は通常通り実施できていることを台湾内外に認知させ、対応を怠らないよう促す目的もあった可能性がある。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

7月は中国軍機延べ606ソーター(内、中間線超えが延べ437)、中国艦艇延べ231隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は66ソーター、最大中間線超え56ソーター、海空協同戦備パトロールは3回であった。

5月以降活動していた海警船は確認されなかったが、7月15日に公務船1隻の確認が初めて公表され、延べ5隻の活動が確認された。公務船の種類は公表されていないが、海警船の代わりに行政法執行権限を持つ船舶や海域・海底等調査船等をもってプレゼンスを強化している可能性がある。

7月31日の加艦艇の台湾海峡通過に関し、中台ともに状況を把握していると公表。中国側は東部戦区報道官が「加護衛艦モントリアルが(筆者注：HMCS Montreal)台湾海峡を通過。東部戦区は海空戦力をもって全行程を監視警戒し、法規に従い対処。戦区は高度の警戒を維持し、全ての威嚇挑発に随時対応する」と表明した⁸。

(2) 金門周辺海域での動向

○ 台湾漁船の拘束

7月2日 20:14（台湾時間、以下同）、台湾漁船“大進満 88”が金門周辺海域で中国海警船に拘留された。

21:14、台湾海巡署は巡視船を派遣し解放を呼びかけるも、衝突回避の為追跡を停止。

22:30、“大進満 88”は中国の圍頭港に連行された。

“大進満 88”が臨検を受けた海域は中国領海内であり、中国の休漁期間中であった⁹。

これに関し、中国海警局は7月3日、「7月2日、福建海警は泉州近海で法に基づき不法漁労容疑の台湾省籍の漁船 1 隻を臨検した。当該漁船は休漁規定に違反。臨検の間、台湾の関連船舶が当方の正常な法執行を妨害しようとしたため、福建海警は法に基づき離脱するよう警告を行った」と表明した¹⁰。



(資料源：中央通訊社 20240708 に追記)

○ 「金門 0214 漁船転覆事件」処理で中台合意

台湾の大陸委員会は 7 月 30 日、2 月 14 日に発生した金門周辺海域において台湾当局の取り締まりを契機に中国漁民 2 名が死亡した事件に関し、30 日に中国側と合意文書に署名したと発表。

「関連の司法手続き終了後、中国人の遺体と船舶は遺族と所有者に引き渡した、今回の事案は偶発的なものであり、双方が再発防止に努力するよう望む」と表明¹¹。

○ 海警船のパトロール

7 月は、3 回の中国海警船 4 隻による金門制限区域内航行が確認された¹²。

【コメント】

金門周辺海域での緊張が高まるきっかけとなった「金門 0214 漁船転覆事件」の処理に中台双方が合意し、同事件は終了した。しかし、7 月に拿捕された大進満 88 は 8 月 7 日現在、未だ中国の港湾で拘束から解放されたとの報道は未確認であり、金門周辺での海警船による制限水域侵入も継続している。

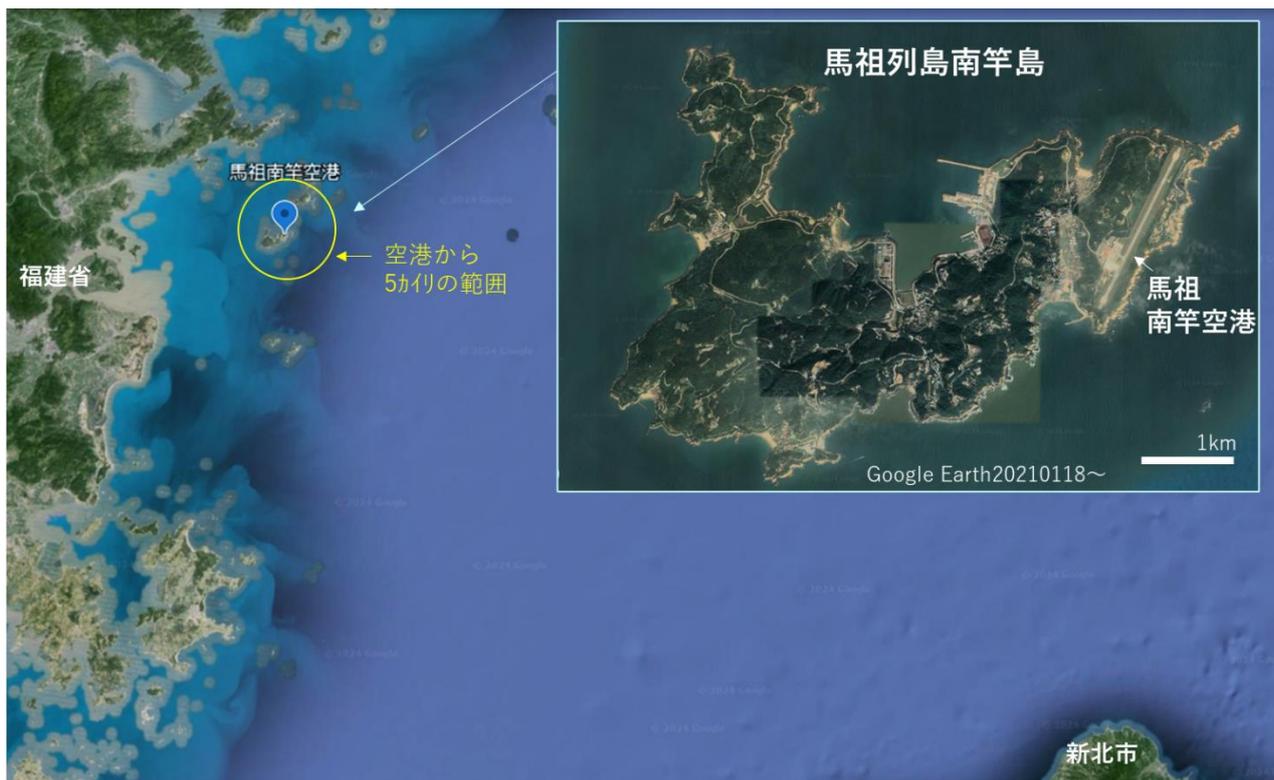
中国が係争海域において相手側の行動を口実にエスカレーションラダーを上げるのは常套手段であり、金門周辺においても上げたエスカレーションラダーを下げることなく、海警船によるパトロールを常態化させていく可能性がある。

(3) 馬祖島周辺での動向

○ 無人機の飛来

7月3日、台湾陸軍馬祖防衛指揮所は、「7月2日に中国軍無人機が防衛区域周辺空域で活動、民航機の滑走路に近接したため、南竿空港に通報した」と公表。南竿空港によると、空港から5カ所の位置に無人機1機を確認。無人機は約20分飛行し、これにより民航機2機の着陸が約30分遅延した¹³。

また、同防衛指揮部は7月4日に、「中国軍無人機は制限水域上空には侵入せず、担当防衛区は状況把握後速やかに空港側に通報しており、適切な対処を実施した」と表明¹⁴。



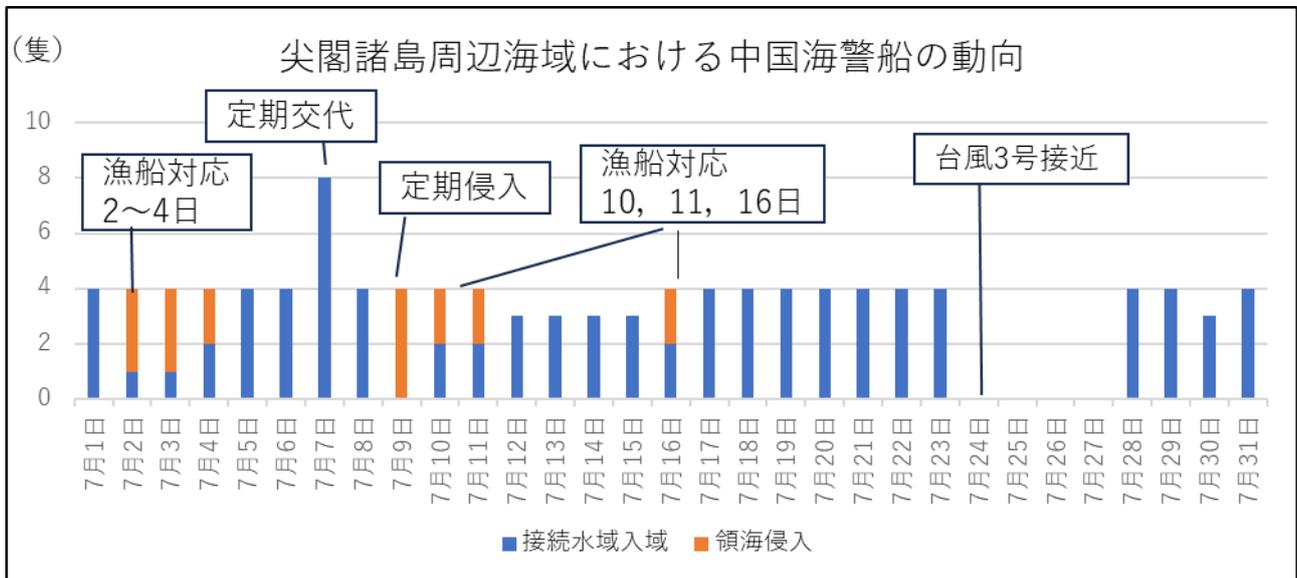
【コメント】

先月6月には金門島で中国民間会社無人機によるビラ投下が確認されている。台湾軍は無人機への対処を強化していると表明しているが、中国対岸に位置する台湾の離島への中国無人機の飛行を完全に阻止するのは不可能であり、直接の被害がなければ通報や監視に止めるしかない状況に置かれている可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向を纏めたのが以下の表である。



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に作成)

中国海警局報道官は7月4日「7月2~4日、日本漁船“鶴丸”“善幸丸2”と巡視船数隻が釣魚島（筆者注：ママ）領海に不法侵入、中国海警船は法に基づき必要な規制処置を採り、離脱するよう警告。日本側が当該海域での一切の違法行動を直ちに停止することを促す。」と表明した¹⁵。

中国海警局報道官は7月11日「7月10日、日本漁船“三加丸”と巡視船数隻が釣魚島（筆者注：ママ）領海に不法侵入、中国海警船は法に基づき必要な規制処置を採り、離脱するよう警告。日本側が当該海域での一切の違法行動を直ちに停止することを促す。さもなければ中国はあらゆる対抗措置を執る権利を有する」と表明した¹⁶。

【コメント】

6月に砲搭載船4隻が初確認されたが、7月上番の尖閣編隊も砲搭載船4隻であり、これを常態化させつつある。

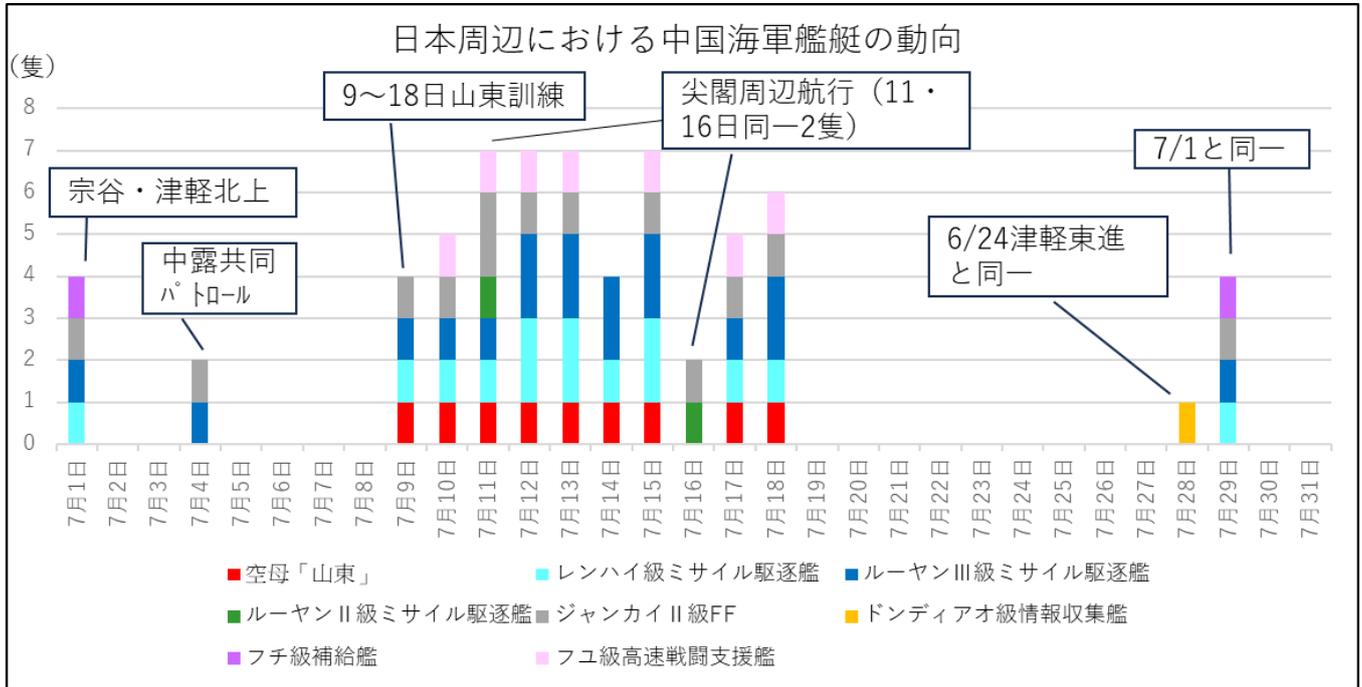
海警局報道官はこれまで日本漁船の操業に対しては「類似事案の再発を防止するよう促す」との表現を主に使用してきたが、7月11日に初めて「さもなければ中国はあらゆる対抗措置を執る権利を有する」との表現が確認された。

「海警機構行政法執行手続規定」が6月15日から施行されており、今後戦略的環境が整えば、エスカレーションラダーをあげ、日本漁船に対して臨検等を試みる可能性もある¹⁷。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。

○ 中国艦艇の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に作成)

【コメント】

7月は空母「山東」の訓練や、遠海訓練の実施等活動が活発であり、延べ65が確認された。

1日に宗谷・津軽海峡を北上した4隻はベーリング海での訓練を終了し、29日に与那国・台湾及び沖縄・宮古間を通過し中国方向へ航行した(2各軍等(3)海軍の項参照)。

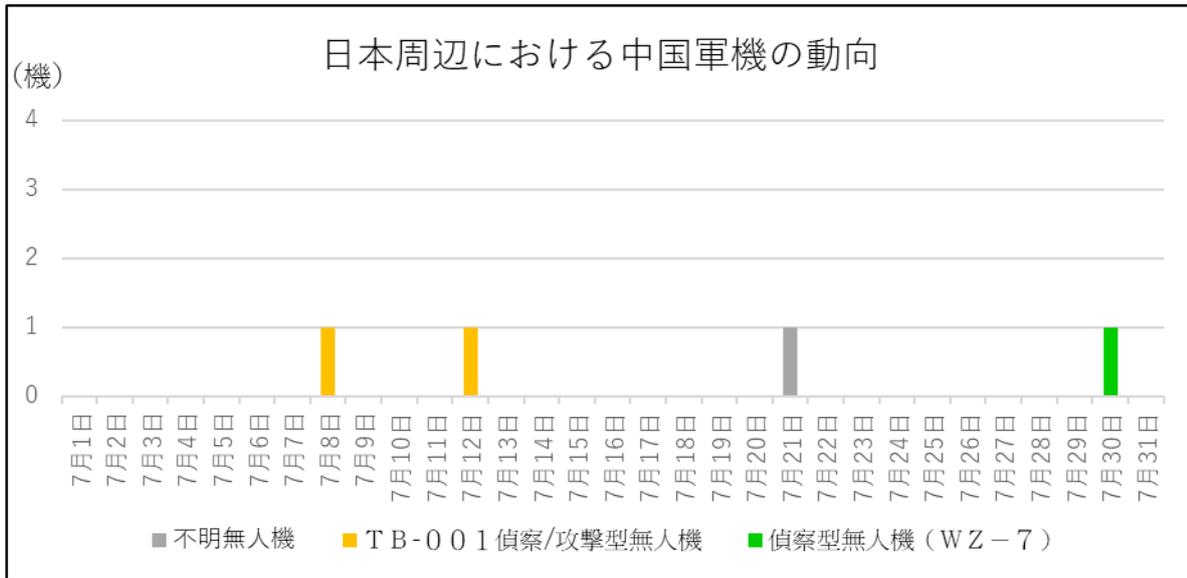
4日、中露共同パトロールに参加した2隻は大隅海峡を東進した(6軍事外交・共同訓練の項参照)。

9~18日に宮古島南方で空母「山東」を含む最大7隻が訓練を実施した(2各軍等(1)統合・協同訓練の項参照)。

尖閣周辺を航行していた2隻は11日に与那国・台湾間を南下し、16日に沖縄・宮古間を北上して中国方向へ航行した。

28日に与那国・西表間を北上した情報収集艦は6月24日に津軽海峡を東進した艦と同一であり、太平洋で約1か月活動、6/27~8/2までハワイ諸島及び同周辺海空域等で実施される米海軍主催多国間共同訓練(RIMPAC)への対応だった可能性がある。

○ 中国軍機の動向



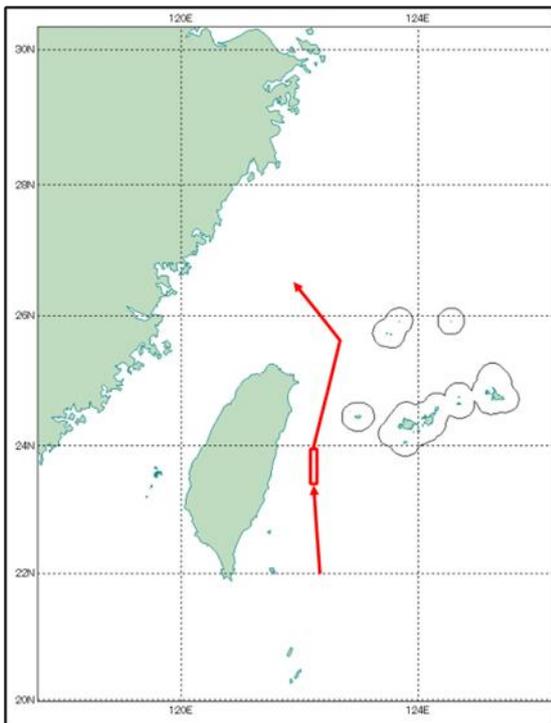
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に作成)

【コメント】

7月も先月同様無人機の活動のみが確認であったが、機数は倍増した。

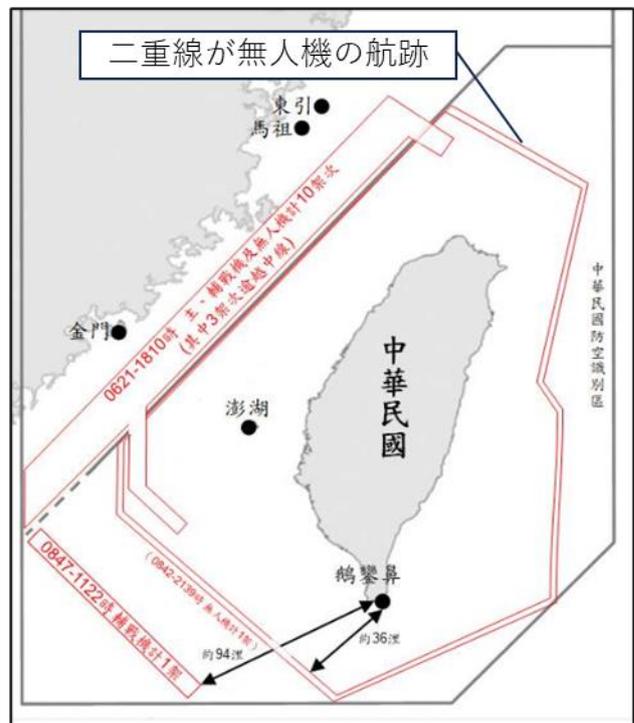
21日に確認された不明無人機の航跡は下左図であるが、下右図のように同日に台湾周回飛行した無人機と同一機であり、台湾で22日から開始された漢光演習への威圧であった可能性がある。

7/21 不明無人機の航跡



(資料源：統幕幕僚監部20240721)

7/21 中国軍機の動向

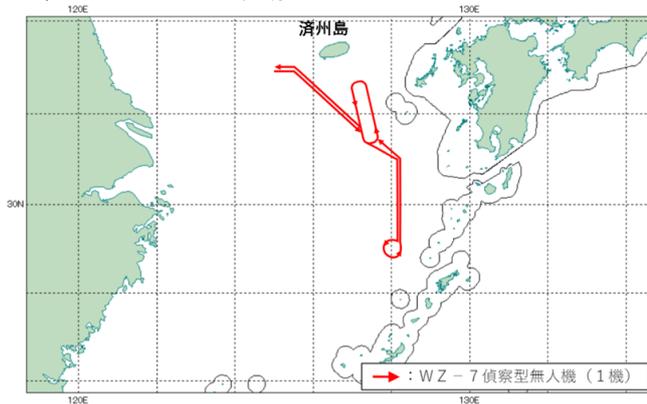


(資料源：中華民國國防部20240722)

30日に確認されたWZ-7は、下図のように先月6月25日に確認された同一機種とほぼ同じ航跡であった。

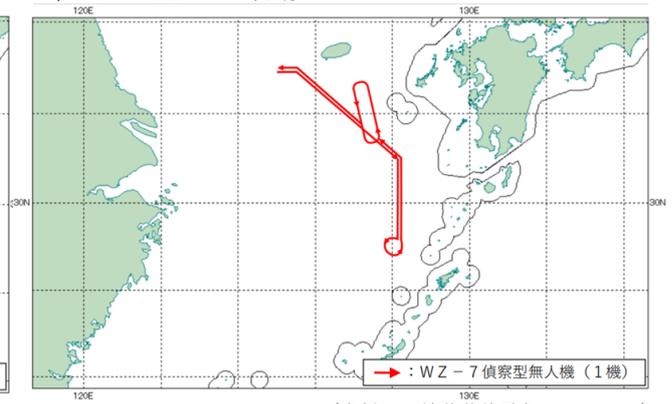
先月は6月27～29日の日米韓共同訓練「フリーダム・エッジ」関連の情報収集を実施していた可能性があるが、7月は28日～8月7日まで熊本・佐賀・沖縄を含む5県で陸上自衛隊と米海兵隊との共同訓練「レゾリュート・ドラゴン24」が実施されており、これに関連した飛行であった可能性がある。

6/25 WZ-7の航跡



(資料源：統幕幕僚監部202400625)

7/30 WZ-7の航跡



(資料源：統幕幕僚監部202400730)

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

- **日・NATO 関係強化** 中国国際問題研究院 解放軍報 20240704
最近、欧州の多くの国が日本周辺に艦艇を派遣し、海上自衛隊と共同訓練を実施する等、米の扇動の下、日本は NATO と関係を強化し、アジア太平洋の NATO 化・NATO のアジア太平洋化を推進しており、アジア太平洋の安全保障環境に深刻な負の影響を及ぼしている¹⁸。
- **日米韓初の共同演習** 解放軍報 20240704
6月27～29日、日米韓は初の多領域共同訓練「フリーダム・エッジ」を実施。これは北東アジアの安全保障情勢を複雑化・深刻化するもので国際社会は強く警戒すべき¹⁹。
- **日本が JASSM 導入予定** 解放軍報 20240711
防衛省は米国製の空対地巡航ミサイル「JASSM」の取得に関する文書を米政府と交わしたと発表した。これは専守防衛からの乖離を意味し、軍事大国への危険な信号である²⁰。
- **日本は徒党を組み陣営で対抗するべきではない** 国防部報道官 20240712
（日比円滑化協定・海自姉妹部隊等についての質問に対し）日本は南シナ海問題の当事国ではなく、中比間争議に介入する権利はない。日本は歴史上幾度も騒動をでっちあげ、侵略戦争を引き起こしており、国際社会は強く警戒すべきである²¹。
- **日比のアジア太平洋における攪乱は危険な一歩** 中国国際問題研究院 解放軍報 20240718
日比両国は円滑化協定署名、日本のレーダ輸出等、域外大国の扇動の下に軍事連携を強化している。日本は侵略の歴史を否定し軍拡に狂走し、比は信義に背き南シナ海において頻繁に問題を引き起こす。両者が結託を強めれば地域の安全安定にマイナス、アジア太平洋国は強く警戒すべき²²。
- **2024年版防衛白書に関する質問への回答** 国防省報道官 20240718
同白書は昔の思考で現実に合わず、中国を批判し、日本の民衆を騙し、国際社会に誤解をあたえ、軍拡の為の口実にほかならない。我々は強烈に不満であり、断固として反対し、既に日本側に厳正な申し入れを行っている²³。
- **防衛白書は日本の危険な軍事動向を暴露** 解放軍報 20240719
同白書の示す軍事的挑発は中日関係に深刻な影響を与えるだけでなく、北東アジア引いてはアジア太平洋地域の安全保障情勢を大きく変化させるものだ。日本は台湾植民地統治50年で犯した犯罪は絶筆に尽くしがたく、台湾問題でとやかく言う資格はない²⁴。
- **日本が太平洋・島サミットを開催** 解放軍報 20240725
7/16～18に開催された太平洋・島サミットで、日本は600億円の資金援助により島嶼国に取り入り操ろうとしている。日本は中国脅威論を掲げているが、それより太平洋島嶼国が関心があるのは福島核汚染水（注：原文ママ）問題だ²⁵。
- **日台共同海上演習に関する国防部報道官発言 定例記者会見 20240725**
日本が台湾地区と海上共同訓練を実施したことは強烈に不満であり、断固反対する²⁶。

【コメント】

7月に発刊された防衛白書への不満の他、日米同盟強化への反対の論調を継続した。また日本と比・韓国・NATOとの連携を強く警戒しており、台湾との連携には強烈な不満を表明、日本と同志国等の連携強化を阻止したいとの思惑がある。更に太平洋諸国との連携に釘をさす目的で福島原発処理水を「汚染水」と呼称する等、世論戦を展開した。

5 国境地域等での活動（南シナ海）

○ サビナ礁

7月1日、中国海警局報道官が「フィリピン（以下、比）が3隻の巡視船を派遣し、仙賓礁（サビナ礁の中国名）に不法に滞在している巡視船9701に人員物資を輸送。海警は全行程を追跡・監視しており、これまでと同様管轄海域で権益維持法執行を実施する」と表明²⁷。

○ セカンドトーマス礁

7月22日、中国外交部報道官は仁愛礁（注：セカンドトーマス礁の中国名）で比側と暫定合意に達したとして以下のように表明した²⁸。

「中国は以下の3点の原則的立場に基づき比側と協議し、人道的物資輸送での暫定合意に達した。双方は相違を共同管理し、南シナ海での緊張緩和に合意した。

- ① 比側が仁愛礁に軍艦艇を座礁させているのは中国の主権侵害であり、南シナ海行動宣言違反である。比がこれを撤去し、無人無施設の現状に復帰させるよう要求する。
- ② 比の座礁船への生活物資補給については、人道主義の観点から、まず中側に通報し、現場で検査後に補給を許可する。中側は全過程を監視する。
- ③ 比が建設資材を輸送し、固定施設・哨所を建設しようとすることは決して受け入れず、断固阻止する」

一方、比外務省も7月21日、比の座礁船に対する補給実施について誤解や誤算を回避するため原則的な合意に達したと公表。但し、中国側への通報や検査については言及なく、比外務省は中国への事前通知については否定した²⁹。

【コメント】

サビナ礁は比が自国EEZ内に所在すると主張している礁。人工物の建造は確認されていなかったが、本年5月、比は中国がサンゴの残骸を投棄して埋め立てを行っている兆候があると発表。その後、中比両国が調査船や巡視船を派遣して対峙が継続している。

また、セカンドトーマス礁でも緊張緩和に合意はしたものの、両国の主張に歩み寄りはなく、今後も南シナ海では対立が継続する可能性がある。

6 軍事外交・共同訓練

○ 中露海上共同パトロール

7月、太平洋西部・北部において第4回中露海上共同パトロールを実施。2021年以來4度目。中国からはルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦1隻（銀川）、ジャンカイⅡ級フリゲート1隻（衡水）及びフチ級補給艦1隻（微山湖）、露側はドゥブナ級補給艦1隻及びステレグシチー級フリゲート1隻が参加。臨検拿捕、ヘリの相互着艦等を演練した³⁰。

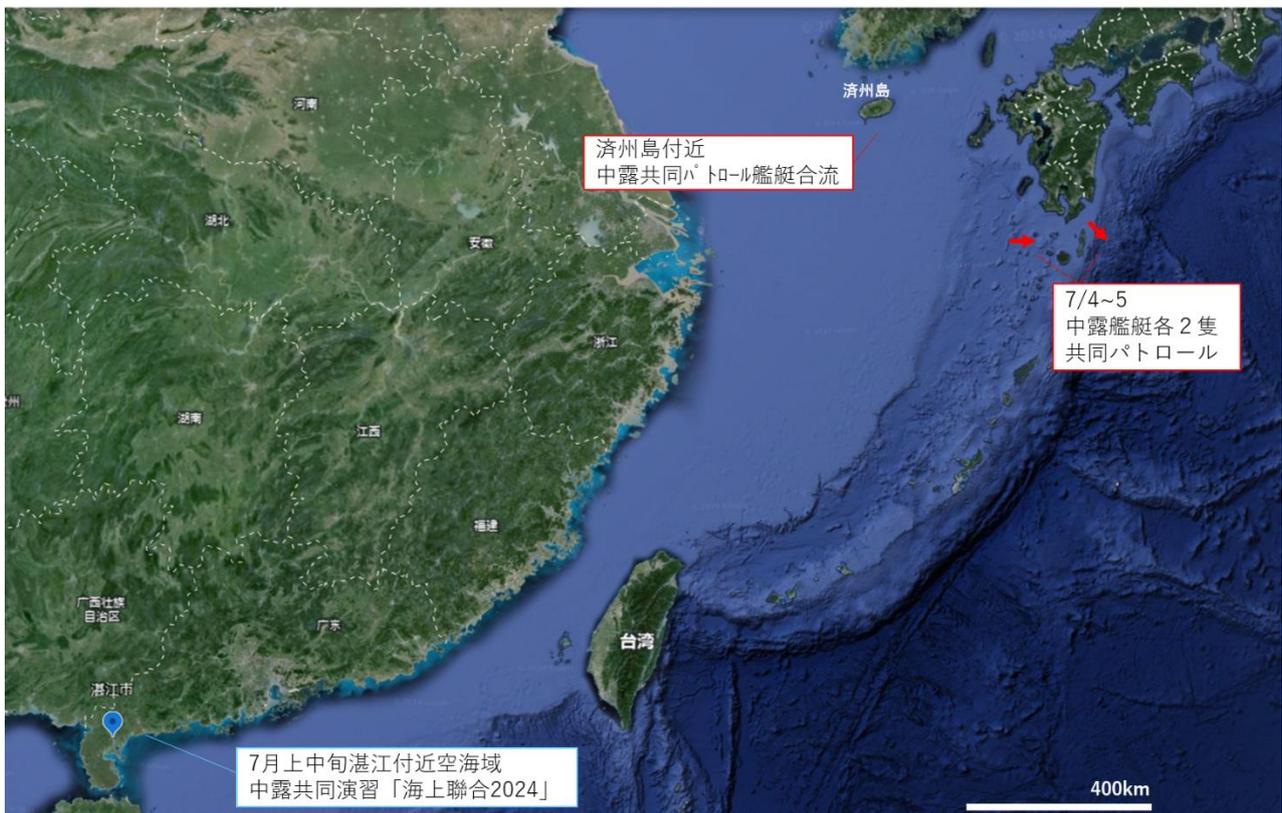
7月4日に両国の艦艇各隻が済州島付近で合流、4～5日にかけて、これら計4隻の艦艇が大隅海峡を東進し、太平洋へ向けて航行³¹。14日に南シナ海に入った³²。

○ 中露海上共同演習「海上聯合2024」

中露海軍は7月12～17日、湛江付近の空海域において「海上聯合2024」を実施³³。

露海軍ステレグシチー級フリゲート2隻・補給艦1隻が12日に湛江港に到着。中国側からはルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦1隻（南寧）、ジャンカイⅡ級フリゲート2隻（咸寧・大理）、フチ級補給艦（微山湖）、艦載ヘリ、海軍陸戦隊が参加。露3隻、中4隻の計7隻が「海上安全脅威への共同対処」をテーマに以下の訓練を実施した³⁴。

- ・12～14日：港湾での交流行事・図上演習。
- ・15～17日：海上演習、共同による偵察・対潜・打撃・防空・ミサイル対処等の訓練



○ 中露共同空中戦略パトロール

7月25日、中露はベーリング海上空において共同空中戦略パトロールを実施した。これは2019年以來8度目³⁵。

露国防部によれば、露 Tu-95MS 爆撃機と中 H-6K 爆撃機がチュクチ海、ベーリング海及び太平洋北部海域上空を5時間余り共同パトロールし、露 S-30SM と S-35S がエスコートを実施した³⁶。

北米航空宇宙防衛司令部 (NORAD) は現地時間24日にプレスリリースを発表。「NORAD は、露 TU-95×2、中 H-6×2 にアラスカ防空識別圏 (ADIZ) 内で対応、中露機は国際空域を飛行し、米加の領空には侵入しなかった。同行動を脅威とはみなさず、NORAD は北米における競合者の監視を継続し、プレゼンスにはプレゼンスをもって対処する」と表明した³⁷。



共同パトロールする中露爆撃機



中爆撃機に対応する米加戦闘機



【コメント】

中露両国は海上共同パトロール、海上共同演習、共同空中戦略パトロールを7月に実施し、軍事協力の継続をアピールした。

2023年は海上共同演習「北部聯合2023」を7月20～23日に日本海で、海上共同パトロールを7月26日に太平洋西部と北部で³⁸、実施したと中国国防部が発表。「北部聯合2023」では中露艦艇10数隻と30数機の軍用機が参加した³⁹。防衛省によれば7月28～29日の間、日本海～宗谷海峡にかけて中国艦艇5隻、露艦艇5隻、計10隻が確認された⁴⁰。

昨年の海上共同パトロール・演習に参加したのは北部戦区海軍であったが、本年は南部戦区海軍であり、場所も東シナ海及び南シナ海であったことから、南シナ海において緊張の高まっている比及びその同盟国である米等に中露の協力のアピールを企図した可能性がある。

共同空中パトロールについては、2023年は6月に東シナ海～太平洋⁴¹、12月に日本海～東シナ海で実施⁴²しており、中爆撃機がアラスカ防空識別圏で確認されたのは初めてである。また、中露共同ではないが、中国艦艇4隻が7月にベーリング海で活動したのも確認されている（2各軍等（3）海軍の項参照）。

既に米本土沿岸における活動を実施している艦艇に加え、空軍機もその活動範囲を拡大させており、露と共に米本土への牽制を企図した可能性がある。

○ トンガ海軍創立 50 周年記念観艦式参加

7月3日、ルーヤンIII級ミサイル駆逐艦淄博艦がトンガの首都ヌクアロファに到着、4日から他の11ヶ国の海軍と共同でトンガ海軍創立50周年記念観艦式に参加⁴³。淄博艦は6月16日にフチ級補給艦1隻と共に沖縄本島と宮古島との間を通過し太平洋へ向けて航行した艦艇である。

なお、同観艦式には、日本からは海上自衛隊護衛艦「のしろ」が派遣された。



(写真資料源：左右共環球網 20240703)

○ 中国・ラオス共同演習「友情の盾 2024」

7月5～18日、ラオスにおいて中国・ラオス共同演習「友情の盾 2024」を実施。「友情の盾」演習としては2回目。共同防衛作戦行動をテーマに、偵察・攻撃・掃討等を演練、7月18日には総合実動演習を実施した⁴⁴。



【コメント】

中国の編成完結式での部隊旗には香港駐留部隊の荣誉称号が確認されることから、今演習には香港駐留部隊が主力として参加した可能性がある。香港駐留部隊の外国での共同演習に参加は初確認であるが、中国軍の外国との共同訓練が増加していることに加え、香港情勢が安定していることを示唆している可能性がある。

また、本年5月に実施されたカンボジアとの共同訓練「金龍 2024」でも使用されたロボット犬や UAV も使用されており、外国軍への武器売却・中国への依存度の増大をも目的としている可能性がある。

○ 中国・ベラルーシ陸軍共同演習「雄鷹突撃 2024」

7月8～19日、対テロをテーマにした中国・ベラルーシ陸軍共同演習「雄鷹突撃 2024」を実施。中国側は北部戦区第80集団軍（山東省）の旅団から抽出された部隊が参加。17日から総合実動演習が開始され、空港を占拠するテロ分子に対する共同制圧等を演練した⁴⁵。



【コメント】

ベラルーシは7月4日に上海協力機構首脳会議で加盟が承認された。会議期間中、習近平国家主席はベラルーシ大統領と会談を実施し、ベラルーシの上海協力機構正式メンバー入りを歓迎した。今次共同演習はポーランドの国境近くのブレスト市近郊の演習場で実施されており、NATOを牽制したいベラルーシ及び露に協力した可能性がある。

【参考文献】

- 1 統合幕僚監部 20240709
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20240709_01.pdf
- 2 台湾国防部 20240710
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83187&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 3 統合幕僚監部 20240719
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20240719_01.pdf
- 4 中国人民共和国海事局 20240702、20240704
<https://www.msa.gov.cn/page/article.do?articleId=B0212B3C-009A-4F73-A120-EB429A0614FC&channelId=8E10EA74-EB9E-4C96-90F8-F891968ADD80>
<https://www.msa.gov.cn/page/article.do?articleId=B829662C-FFB5-41C3-823E-22EAC77B9836&channelId=8E10EA74-EB9E-4C96-90F8-F891968ADD80>
- 5 United States Coast Guard News Department of Homeland Security20240710
<https://www.news.uscg.mil/Press-Releases/Article/3834722/us-coast-guard-encounters-peoples-republic-of-china-military-naval-presence-in/>
- 6 国防部 20240725
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16327029.html>
- 7 中華民國国防部 20240713
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83200&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 8 中国軍号 20240801
<https://weibo.com/u/7739029497?wm=5>
- 9 台湾海巡署 20240703
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=160799&ctNode=650&mp=999>
- 10 中国海警局 20240703
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202407/t20240703_2356.html
- 11 中華民國大陸委員會 20240730
https://www.mac.gov.tw/News_Content.aspx?n=05B73310C5C3A632&sms=1A40B00E4C745211&s=282613F6EDA86499
- 12 台湾海巡署 20240719
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=160987&ctNode=650&mp=999>
- 13 Newtalk 新聞 20240703
<https://tw.news.yahoo.com/%E9%A6%96%E4%BE%8B-%E4%B8%AD%E5%9C%8B%E8%BB%8D%E7%94%A8%E7%84%A1%E4%BA%BA%E6%A9%9F%E9%97%96%E9%A6%AC%E7%A5%96%E5%8D%97%E7%AB%BF%E6%A9%9F%E5%A0%B4%E5%BE%98%E5%BE%8A20%E5%88%86%E9%90%98-2%E5%9C%8B%E5%85%A7%E7%B7%9A%E8%88%AA%E7%8F%AD%E5%BB%B6%E8%AA%A>

- 4-070820651.html
- 14 中華民國國防部 20240704
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83165&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 15 中国海警局 20240704
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202407/t20240704_2359.html
- 16 中国海警局 20240711
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202407/t20240711_2374.html
- 17 中国海警總隊東海海区の動向 20240726
<https://jinf.jp/wp-content/uploads/2024/08/NationalSecurity20240726.pdf>
- 18・19 解放軍報 20240704
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-04&paperNumber=11&articleid=934506
- 20 解放軍報 20240711
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-11&paperNumber=11&articleid=935033
- 21 解放軍報 20240713
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-13&paperNumber=03&articleid=935203
- 22 解放軍報 20240708
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-18&paperNumber=11&articleid=935558
- 23 国防部網 20240718
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16325448.html>
- 24 解放軍報 20240719
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-19&paperNumber=04&articleid=935620
- 25 解放軍報 20240725
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-25&paperNumber=11&articleid=936047
- 26 中国軍網 20240725
http://www.81.cn/yw_208727/16327031.html
- 27 中国海警局 20240702
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202407/t20240702_2351.html
- 28 中国海警局 20240722
https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/202407/t20240722_11457472.shtml
- 29 Philippine News Agency 20240722
<https://www.pna.gov.ph/articles/1229446>

- 30 中国国防部 20240715
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16324642.html>
- 31 統合幕僚監部 HP20240705
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20240705_01.pdf
- 32 国防部網 20240715
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16324642.html>
- 33 国防部網 20270712
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16323877.html>
- 34 解放軍報 20240718
http://www.81.cn/yw_208727/16325212.html
- 35 中国軍網 20240726
http://www.81.cn/yw_208727/16327138.html
- 36 環球網 20240726
<https://mil.huanqiu.com/article/4IIAKjRROiO>
- 37 NORADHP
<https://www.norad.mil/Newsroom/Press-Releases/Article/3849184/norad-detects-tracks-and-intercepts-russian-and-prc-aircraft-operating-in-the-a/>
- 38 国防部網 20230726
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16239842.html>
- 39 国防部網 20230727
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfy/lxjzhzt/2023njzh/2023n7y/16240913.html?tsrknqdycbq>
- 40 統合幕僚監部 20230729
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2023/p20230729_01.pdf
- 41 統合幕僚監部 20230607
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2023/p20230607_02.pdf
- 42 統合幕僚監部 20231214
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2023/p20231214_02.pdf
- 43 環球網 20240703
<https://mil.huanqiu.com/article/4ISa8xLMN4c>
- 44 中国軍網 20240719
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-19&paperNumber=04&articleid=935616
- 45 解放軍報 20240720
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-07-20&paperNumber=04&articleid=935678

中国軍事動向月報 2024年7月

2024年8月7日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。